# 第34回岐阜県原爆死没者慰霊祭へのメッセージ

第34回岐阜県原爆死没者慰霊祭にあたり、戦争により尊い命を失われたすべての原爆死没者の皆様に、心より哀悼の意を表します。

また、岐阜県原爆被害者の会（岐朋会）の皆様には、長年にわたり「二度と被爆者をつくるな」という強い信念のもと、核兵器廃絶と平和で持続可能な社会の実現に向けてご尽力いただいておりますことに、深く敬意を表します。

岐朋会の皆様には、「岐阜県ピースアクション連絡会」や「被爆者の願いを継承する岐阜県民の会」の活動において、「被爆の証言」の記録や学習活動、署名活動など、さまざまな場面でご協力をいただいております。被爆体験の記録と伝承、核兵器禁止条約への批准を求める取組を通じて、県内各地に平和への願いが着実に広がっていることを、大変心強く感じております。

一方、世界に目を向ければ、ウクライナや中東をはじめ各地で武力による対立が続き、核兵器による威嚇や軍備拡大の動きも強まっています。核軍縮を進めるべき国際社会においても、依然として各国の立場の隔たりは大きく、平和への道のりは決して平坦ではありません。被爆者健康手帳を持つ全国の被爆者は、本年３月末現在で91,105人となり、30年前の３割以下にまで減少しました。平均年齢も86歳を超え、被爆者なき時代の到来は目前に迫っています。被爆体験を記録し、その記憶を若い世代へ語り継ぐ仕組みづくりは、いままさに待ったなしの課題となっています。

当連合会も、2011年の岐朋会設立以来、被爆者の皆様と歩みをともにしてまいりました。その中で私たちは、「支援する立場」というよりも、むしろ皆様から多くのことを学び、励ましと勇気をいただいてきました。想像を絶する体験を経ながらも、「二度と繰り返させてはならない」と語り続ける皆様の姿は、私たちに平和の尊さと命の重みを教えてくださっています。その思いを受け止め、家族や地域、そして次の世代へ伝えていくことが、今を生きる私たちの責任であると考えます。また、生協の平和活動を通じて、平和や核兵器の問題に関心を寄せる若い世代と出会うこともあります。その姿に私たちは大きな希望を感じています。一人ひとりの力は小さくとも決して無力ではありません。対話を重ね、学び合い、行動を積み重ねることこそが、核兵器のない世界と恒久平和の実現につながるものと確信しています。

私たち生活協同組合は、これからも岐朋会の皆様への感謝と敬意を胸に、「核兵器のない世界」の実現をめざし、被爆者の願いを未来へ継承する取組を粘り強く進めてまいります。そして、核兵器のない世界と恒久平和の実現に向け、地域に根ざした活動を積み重ねていくことをお誓い申し上げ、第34回岐阜県原爆死没者慰霊祭へのメッセージといたします。

2026年９月13日
岐阜県生活協同組合連合会
会長理事　根崎 周一